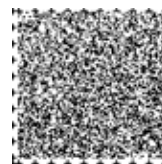


社会福祉法人 創文会  
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



# Topia

第48号



〒693-0014

出雲市武志町 693-6

Tel : 0853-2 3-2 7 2 0

Fax : 0853-2 3-2 7 2 1

E-mail shien@heartpia.or.jp

ホームページ

http://www.heartpia.or.jp

<発行所>

相談支援事業所

ハートピア出雲

## ブルーライトアップを行いました。

毎年4月2日は国連が定めた世界自閉症啓発デーです。

それに伴い4月2日～8日は発達障がい啓発週間としてい  
やし・希望・平穏を表す「青」をシンボルカラーにして世界  
各地でイベントやライトアップが行われるようになりました。

ハートピア出雲でも毎年、青色のライトアップや玄関にポ  
スターの掲示などを行っています。

青いライトは放課後デイサービスに通う中学生・高校生さ  
んが取り付けてくれました。

現場の仕事だけではなく、地域や社会へ働きかけることも  
専門職として大切なことではないかと思えます。

地域の皆様が発達障がいを正しく理解していただくことで、  
『あたたかく見守っていただける地域』、『より住みやすい地域』  
になれば良いなと思っています。

(放課後等デイサービス ハートピア出雲ステップ 伊藤将寛)



僕たちがライトを取り付けました！



青い風船の花束をつくったよ！

### こうしてもらえると助かります。～自閉症の人を見かけた時の対応～

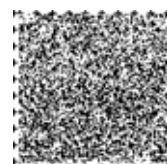
自閉症の人には、会話が苦手な人が多くいます。このため、その人の発達に応じたわかり  
やすい説明をお願いします。例えば、その人が理解している言葉を知り、その言葉を使うこ  
とや、写真や絵などを添えて説明する、抽象的な表現をさけて、短い表現で話すことなどで、  
理解しやすくなります。

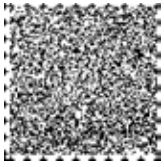
また新しい事や、いつもとやり方が違う時に、困って混乱することがあります。また、  
「できない時」「間違っていた時」に叱って教えようとする、本人が混乱して余計に理解で  
きなくなることもあります。どうすればよいのか、正しい方法をできるだけ具体的に教える  
ことを基本に、穏やかに根気よく接して、良い関係を作るようにしてください。

(世界自閉症啓発デー 日本実行委員会公式サイトより抜粋)

## もくじ

- 世界自閉症啓発デーのブルーライトアップ・・・・・・・・・・1 p
- 父親の会の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2 p
- 研修報告会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3 p
- ピンチをチャンスに～岡紀彦さんの紹介～・・・・・・・・・・4 p





## 父親の会は力を合わせて問題に取り組む会です。

こんにちは。ハートピア出雲父親の会の会長の加田と申します。本年度もよろしくお願い致します。

先日は本年度第一回の父親の会を開催いたしました。初めてご参加していただいたお父さん方も多く、いつもより新鮮な会となりました。

今回の会の内容はサービス管理責任者の高尾さんによる「知って得する制度の使い方」の説明でした。療育手帳や身体障害者手帳を上手く利用して、いろいろなことが免除されたり割引になったりなどの内容を分かりやすく教えていただきました。

レクリエーションでは、チーム対抗のロング雑巾での雑巾がけレースを行いました。このころになると初めは固かった表情のお父さん方も笑いがではじめて、最後は、子供の頃にやった「けいどろ」で大盛り上がりでした。

まずは、お父さん達同士が顔見知りになることが目的で行った第一回の父親の会でした。目標として年に3回は、開催をしたいと思ってます。次回の内容も検討中ですが、皆様の方からこんなことがしたい、とかこんな事が知りたいということが、あれば大歓迎です。是非お気軽にお声をかけて下さい。

父親の会のコンセプトは、同じ悩みや問題を持つお父さんに先輩お父さんからアドバイスをもらえたり、力を合わせて問題に取り組んだりする場です。

また、普段子育ては、お母さんをお願いしていることが多いですが、いざとなった時にお父さんが出ていく為の準備する場でもあります。いろいろな先輩や仲間たちと出会い私自身もとても成長できたと実感できました。是非もっと多くのお父さんたちにご参加していただけたらと思っています。

次回の開催日も改めてお伝えしますので是非一緒になってこの「父親の会」を盛り立てていただけたらと思います。ご参加お待ちしております。(文：父親の会会長 加田浩一)



### ◆「父親の会」に参加した職員から◆

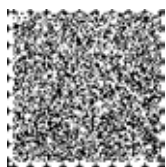


1月26日の土曜日に父親の会がありました。雪が降る寒い日にも関わらず、会長さん含め7名の父親の方が参加されました。今回の会では、会長さんから父親の会の紹介や自己紹介後に勉強会や親睦を深めるためにレクリエーションをしました。レクリエーションでは、実際に放課後等デイサービススクラムで取り入れている療育の中から感覚統合の話を踏まえながら雑巾がけレースとケイドロを父親の方と職員でしました。私を含め、初めて参加される父親の方が多かったので、始まる前は緊張した様子でしたがレクリエーションを通して少しずつ緊張がほぐれておられました。レクリエーションでは、皆さん本気モードでしたので私も必死に走り、ゲーム後はしばらく動けない状況でした。



また、とびあ館で使用している遊具をお子さんがどんな風に遊んでいるのかを実際に体験していただき、少しだけでしたが普段のお子さんの様子を知ってもらうことができました。父親の方とお話をする機会があまりないので思いや考え方を聞くことができ、支援者にとっても、父親の皆さんにとっても貴重な機会になったと思います。母親同士だけでなく、父親同士の関わりを深めていくためにも父親の会は大切にしなければならない会だと改めて感じました。

今後も父親の方と一緒に子どもさんのことをみんなで考え、支えていくことができる会となるように会長さん含め、父親の皆さんと一緒に会を行っていかうと考えておりますので、たくさんのお父さんの方にご参加いただければと思います。(文：児童指導員 大國茜)



## 性教育についての研修会に行ってきました。(後編)

昨年出雲養護学校で「知的・発達障害児への性教育 産婦人科医の立場から」という研修があり、大田市立病院産婦人科榎原研氏の話聞いてきました。

子どもたちが成長していく中で、性教育は必要不可欠なものです。私たち支援者も子どもたちにどのように伝えていけばよいのかを考えています。今回の研修では幼少期の話しは無かったのですが、性教育については幼少期からの関わりが必要な子どもさんもおられます。子どもたちひとりひとり、いつ、だれが、どのようなタイミングで話しをしたらよいかは違ってきます。その時に、親としてまたは支援者として真剣に子どもたちと向き合うことが必要であり、人としてごくあたりまえなこととして話をしていくことが大切だと感じています。

今回の研修は前もって質問内容を保護者の方々に訊いていたのでQ&Aという形で行なわれましたので、いくつか紹介させていただきます。

Q 3：性的トラブルや被害に遭わないための防御の方法や、やり方等具体的に娘に教えてほしい。また、被害にあったら誰に相談するか、どうしたら良いか、指導して頂きたい。

A 3：親に報告しても叱られないと思わせる。相談したらいいことがあるという経験を。

A 3：性交と妊娠についての教育がしっかりと行われているのであれば本人を信頼し見守る。

まだ行っていない場合は恥ずかしがらずに教える。妊娠してからでは手遅れ。

○望まない性行為、望まない妊娠の伝え方

- ・まずは望ましい性行為・妊娠を伝える。その後そうでない例を伝える
- ・恋愛⇒結婚⇒性行為⇒妊娠⇒子育ての理解。出産・子育てへの覚悟を教える。

○男子へ

- ・女子は“好きな相手”とでもいきなりボディータッチやキス、性行為は望んでいない。
- ・結婚し生活ができるようになれば相手も喜ぶ。・レイプは犯罪。いじめのもっとひどいもの。
- ・AVや漫画では「いや」と言いながら女性が喜ぶような表現があるが、空想の話し。

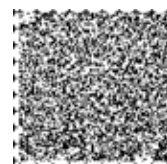
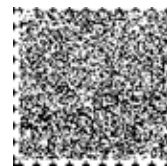
○女子へ

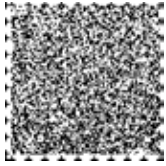
- ・男子にはスイッチがある。そのスイッチはONになるとコントロールできない。
- ・スイッチを入れない工夫。(二人っきり、肌の露出、ボディータッチの意味とリスク)
- ・性行為の理解。(オーラルセックスのリスク、性感染症、外に出しても妊娠する)
- ・いざとなったら泣く、わめく、逃げる。普段から「いや」という訓練。
- ・妊娠後の生活のイメージ(中絶・出産・子育て・金)

\*恋愛や男女交際に関する基本的なマナー・ルールは、相手の嫌がることはしない。自分がしてほしいことは相手にもしない。などなど、他にもたくさんのお話を伺うことができました。

今回はひとりの親として話を聞かせて頂きました。一番の性教育は、最低限の性教育・指導をきちんと行った後は、不必要に本人を囲い込んだりせず、本人の意志や自尊心を尊重して行動させることが大切と話されました。見ている親はハラハラ、ドキドキしてしまうが、性犯罪や妊娠中絶といった、自分と他人の身体と心に大きな傷を残すような大きな失敗さえしなければ、本人にとって貴重な経験授業になる。子どもを信じるために親としてできることは、性への興味関心はごく普通のことであり、当たり前前の成長段階であるので、親が恥ずかしがらずに、愛情を持って伝えていくことが必要なのだと改めて感じました。

(文責：相談支援専門員 景山一優)





## 『ピンチはチャンス』という言葉

「ピンチはチャンス」という言葉を皆様一度は耳にしたことがあるかと思います。「ピンチはチャンス」という言葉は勝負の世界でよく使われていますが、他にもいろいろな局面で使われています。絶体絶命となった場面こそ最大の転機であるという意味であり、諦めないことの大切さを主張し

ています。

この「ピンチはチャンス」と同じ意味を持つことわざというと、「失敗は成功の元」「禍を転じて福となす」があり、どちらも人間には失敗や禍を体験しなければ良い結果は得られないという比喻であり、人間の成長性こそ大切な要因であることを表現しています。

私が以前参加した研修で「ピンチはチャンス」というテーマでの講演があり、強く印象に残っているのでご紹介させていただきます。

講師として壇上に登場されたのは、岡紀彦さんという車椅子に乗られた小柄な男性でした。



岡紀彦さん

岡さんの経歴を簡単にご紹介させていただきます。障がい者初のプロ卓球選手であり、パラ卓球（車いす卓球）日本チャンピオン。パラリンピックには、シドニー、アテネ、北京と3大会連続出場されています。先天性骨形成不全症により幼少期は骨折も多く、症状が落ち着いた学生の頃から卓球を始められ、ジャパンオープン肢体不自由者卓球選手権大会の車いすオープンの部で25連覇という偉業を成し遂げられています。

「ピンチはチャンス」の講演では、自身の経験を交えて逆境を乗り越えた先の結果や成長、自分ができるところを見つけチャレンジする精神などを講演されていました。私がこの講演を聞いたのは、社会人として働き始めて数年の経験も浅い頃であり、自身の考え方に大きな影響を与える講演でした。

人生は常に順風満帆ではなく、上手くいくこともあれば失敗もあります。時にはピンチに遭遇し、逃げ出したくなることもあると思います。そんなときに「ピンチはチャンス」の講演を思い出し、ピンチと向き合ってチャンスに繋げていけるように前向きに考え、行動していけるようになりたいものです。

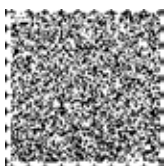
(文：相談支援事業所ハートピア出雲 相談支援専門員 布野寛明)

### ●当事者仲間としてひとこと●

岡紀彦さんと同じ先天性骨形成不全症を持つ私も幼少期、青年期は骨折を何度も繰り返していました。

一度骨を折ると数カ月不自由な生活を強いられることとなり、スムーズな学生生活を送ることはなかったです。療養中は友達とも会えなくなり、寂しい気持ちになったことも多々です。そんな中で私の場合はゲームをすること、音楽を聞くこと、そして絵を描くことを心の支えとしていたと思います。特に絵は今の自分につながる大切なライフワークとなりました。

何事も順調に進んでいるときには気付かなかったことが、困難や挫折を味わうと解り出したり、ものの見方が変化してきたり、不思議なものです。岡さんのように・・・とまではいかないかもしれませんが、これからも困難にぶち当たったときになるべくポジティブに受け止め前に進みたいと思います。(文：米山修二)



### 編集後記

◆東京オリンピック・パラリンピックで使用される東京2020オリンピックスポーツピクトグラムが3月に発表された。それぞれの競技がわかりやすい絵文字になっているので言葉の壁を越えてパッと見ただけで誰にでも通じるとも便利なツールだと改めて今回感じた。そういえば私たち車椅子利用者も普段お世話になる多目的トイレのあのマークもそうだし、他にも多々目にしている。どのピクトグラムもよく眺めているとシンプルだからこそそのデザインセンスを感じてしまう。【編集長 米山】